

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見	
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制



## 社会貢献

日産は、自動車メーカーとして魅力ある製品やサービスを世界中の人々に提供することに加えて、コミュニティの一員として主体的に社会にかかわり、貢献することは企業の重要な使命だと考えます。

企業がさまざまな資源を地域社会に提供し、コミュニティの活性化や課題の解決に積極的に参画することは、企業市民としての責務を果たすというだけでなく、企業活動にとっても有益であり、より良い事業環境や持続的に成長する市場を生み出すことにつながります。

日産は、複雑化する社会課題に対応するため、非営利組織（NGO・NPO）や行政などさまざまなステークホルダーと連携し、相互の強みを生かしながら効果的な活動を展開しています。こうした社会貢献活動の方針をグローバルに共有するとともに、国や地域により異なるニーズに対応するため、各国の事業拠点や関連会社による独自の取り組みも行っていきます。

### 取り組みの柱

3つの重点活動分野

社会貢献

スコアカード

社会貢献

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして、「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは、「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱		重点活動(価値)	進捗確認指標(適用範囲)	2011年度	2012年度	2013年度	長期ビジョン
3つの重点活動分野	環境への配慮	日産の社会貢献活動方針の明文化、社内運営体制の整備および活動内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境教育プログラムのグローバル拡大(グローバル)</li> <li>● 自然災害への対応(グローバル)</li> <li>● 国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップの活用(グローバル)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本、欧州、北米にCSRおよび社会貢献を担当する部長級役職者を置き、グローバルに推進・連携する体制を構築</li> <li>● 北米日産会社が2006年から連携しているNGOハビタット・フォー・ヒューマニティとのグローバル連携に合意、貧困層支援活動を2012年度から積極化</li> <li>● 東日本大震災被災地支援において、10を超える非営利団体と対話し、ニーズが高く、自社として可能な支援を最大限提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本で行っている出張授業プログラムの実施地域拡大および海外展開に向けた検討を開始</li> <li>● 災害発生時の対応について、日米欧の統括会社の担当者間で基準づくりに着手</li> <li>● NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの連携により、岩手県大船渡市で4回にわたり従業員ボランティアによる被災地支援活動を実施、計約100名が参加した。参加者のうち希望者に対して特別休暇を付与した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境教育プログラムの拡大(日本)</li> <li>● 環境教育パイロットプログラムの実施(英国)</li> <li>● 出張授業プログラムの拡大(メキシコ、英国)</li> <li>● 災害支援プロセスを整理し、日米欧の担当者間で共有</li> <li>● NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの連携によりミャンマーにおける5年間の支援活動を開始</li> </ul>	「環境への配慮」「教育」「人道支援」の3分野を中心に、グローバルな考え方と各地域に最適な活動のバランスをとりながら、日産らしい社会貢献プログラムを継続的に実施していく
	教育						
	人道支援						

関連指標

2013年度グローバル社会貢献支出額

約**15**億円  
(寄付金・協賛金を含む、グローバル実績)

社会貢献

社会貢献への取り組み

日産は、社会貢献活動として「環境への配慮」「教育」そして「人道支援」の3分野に重点的に取り組むことを定め、金銭的な支援だけでなく、自動車メーカーとしての知識や専門技術、自社製品、関連施設の活用など、日産が事業を通じて培った資源を十分に生かすことにより、独自性の高い活動を実施しています。

また、より実効性の高い活動を行うため、活動分野において高い知見と専門性を持つ非営利組織(NGO・NPO)との対話を重視しています。

多くの従業員が社会に関心を持ち、活動に自発的に参加できるように、従業員の社会貢献活動をサポートしています。

事業を営む地域への貢献



2013年度の実績

- 国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップのもと、南アフリカとミャンマーで社会貢献プロジェクトを開始
- 東日本大震災の被災地支援として、先端機器を使ったモノづくり体験を提供するワークショップ「Kids Fab CARAVAN」を実施
- 2013年度グローバル社会貢献支出額 約15億円(寄付金・協賛金を含む、グローバル実績)

2013年度 日産自動車(株)社会貢献支出額(内訳)

	社会貢献活動費	寄付	現物寄付(金額換算値)	合計
金額(百万円)	248	232	30	510
比率(%)	48.6	45.5	5.9	100.0

今後の取り組み

- 主要な活動の成果を測る指標(KPI: Key Performance Indicators)を設定する
- 東日本大震災により被災した地域への継続的な支援を実施する

推進体制

日産の社会貢献活動方針は、日産グローバル本社(日本)のCSR部が策定します。エグゼクティブ・コミッティ\*等で議論・決定された方針はグローバルに共有され、各国・地域の活動もこの方針に沿って実行されます。

2014年1月、従来の日米欧の3極を中心とした3リージョン体制から3リージョン体制に移行しました。

\*エグゼクティブ・コミッティの詳細を掲載しています

## 環境への配慮

日産は、環境理念「人とクルマと自然の共生」を掲げ、環境負荷削減に意欲的に取り組んでいます。社会貢献活動においても「環境」への取り組みが重要であると考え、地球環境問題への理解を深める教育プログラムの実施、低炭素社会の実現に向けた基礎研究の奨励といった活動に取り組んでいます。

## 日産の特色を生かした環境出張授業(日本)

日本では、製造業ならではのノウハウを生かした3種類の体験型教育プログラムを2007年から実施しています。いずれも小学校高学年の児童を対象に、日産従業員が講師となって学校を訪問しています。そのひとつである「日産わくわくエコスクール」\*は、地球環境問題への理解を深めるとともに、日産の環境への取り組みを紹介し、100%電気自動車「日産リーフ」の試乗などを通じて最新の環境技術を体験するプログラムです。授業内容はNPO気象キャスターネットワークと協働でつくり上げ、同NPOは講師として授業運営にも参加しています。

好評に应运えて日本国内での実施回数を増やし、2013年度は神奈川県を中心に51校、イベントへの出展等を合わせると約6,000名の生徒が受講。開始以来、同プログラムの受講者数は累計で約2万5,000名に上ります(2014年3月末現在)。

また、日本だけでなく英国でも、英国日産自動車製造会社(NMUK)が地元小学校の児童を対象に同プログラムを実施しています。

## フリート・フォーラムとのパートナーシップ(欧州)

NPOが活動に使用する車両の環境負荷軽減をサポートするため、ジュネーブに本部を置くNPOフリート・フォーラムとパートナーシップを組み、同組織を通じて国連機関を含む5つのNPOに「日産リーフ」を一定期間、無償提供しました。

## 教育

日産は、将来世代を担う子供や若者を支援することは「未来への投資」であると考えます。より良い未来へと続く扉に誰もがアクセスできる社会を実現するために、事業で培った知識や技術を活用した教育プログラムの実施や、新興国における初等教育の機会提供といった活動に取り組んでいます。

## 「子供と本」を通じた取り組み(日本、ポルトガル、米国など)

日本では、創作童話と絵本のコンテスト「日産童話と絵本のグランプリ」\*を1984年から実施し、2014年に30周年を迎えました。同グランプリでは、大賞を受賞した作品を出版し、全国の図書館や事業所近隣の幼稚園・保育園に届ける活動を継続。これまでに約20万冊以上の本を寄贈してきました(2014年3月末現在)。2012年には、日産イベリア自動車会社(NIBSA)がポルトガルで同様のコンテストを創設しました。行政の協力を得て、同国内の学校を通じて才能ある新進作家を発掘し、出版の機会を提供するプログラムです。

また、米国では、北米日産会社(NNA)が本社を置くテネシー州において「ガバナーズ・ブックス・フロム・バース基金」や「ドリー・パートン・イマジネーション・ライブラリー」という、就学前の子供たちが本に親しむためのプログラムを支援しています。

さらに、スマトラ島沖大地震や東日本大震災など自然災害の被災地においては、復興支援の一環としてNGOシャンティ国際ボランティア会が行う移動図書館プロジェクトを支援するなど、「子供と本」を通じた取り組みは日産の社会貢献活動の特色のひとつとなっています。

▶▶ website

\*「日産わくわくエコスクール」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

▶▶ website

\*「日産童話と絵本のグランプリ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

## 社会貢献

### 将来世代にモノづくりの魅力を伝える取り組み (日本、英国、南アフリカ、インドネシアなど)

日産は、モノづくりの楽しさや奥深さを将来世代に伝えたいと考え、さまざまな取り組みを行っています。日本では日産従業員が小学校を訪れ、モノづくりの魅力を伝える出張授業「日産モノづくりキャラバン」や「日産デザインわくわくスタジオ」\*を実施、両プログラム合わせて年間約1万9,000名の子供たちに授業を届けています。また、英国では、英国日産自動車製造会社(NMUK)が同社サンダーランド工場に近隣の児童を招き、「日産モノづくりキャラバン」を実施しています。

NMUKはさらに、次世代のエンジニアを育てる取り組みを積極的に推進。英国クランフィールドにある日産テクニカルセンターと「Annual University Engineering Summit(大学エンジニアリングサミット)」を共同開催し、英国政府が推進するプログラム「See Inside Manufacturing(工場をのぞいてみよう)」にも参加しています。

その他にも、米国や南アフリカ、インドネシアなど多数の国で、車両やエンジンを大学や専門学校に教材として寄贈し、学生の知識や技術向上に貢献しています。



近隣の児童を対象に教育プログラム「日産モノづくりキャラバン」を実施(英国・NMUK)

▶ website

\*「日産モノづくりキャラバン」  
「日産デザインわくわくスタジオ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

### 社会的なサポートを必要とする子供たちへの教育支援 (ブラジル、中国、南アフリカ)

2014年に新工場が稼働開始したブラジルでは、地域とともに発展することを目指し、子供や若者の教育をテーマに取り組む財団「Instituto Nissan」を設立しました。この財団は、ブラジル日産自動車会社(NBA)が本社を置くりオデジヤネイロや新工場の建設地であるレゼンデ、同じくNBAが拠点を持つサンパウロなどで、文化やスポーツ等を含む幅広い子供向けプログラムを提供します。

日産(中国)投資有限公司(NCIC)は、2010年から実施してきたプログラム「日産ケアリング・フォー・マイグラント・チルドレン」を発展させる形で、2013年に「ドリーム・クラスルーム」をスタートしました。これまでは地方から都市部に出稼ぎに来ている労働者の子女の支援を目的としていましたが、対象を拡大し、貧困地区の小中学生を支援する内容になりました。このプログラムを通じて、2013年度は約3,000名の学生をサポートしました。

また、南アフリカ日産会社(NSA)は、巡回車両による眼科検診「モバイル・アイクリニック」により、2013年度は6,624名の児童を対象に検診を実施し、642件の処方箋を発行しました。NSAは過去4年間同プロジェクトを運営し、社会的支援を必要とする子供たちの学習環境を大きく改善することに貢献しています。



「ドリーム・クラスルーム」プログラムの一環で行った交通安全授業(中国)

## 社会貢献

## 学術分野における取り組み

## 日産財団(日本)

持続可能な社会の実現が地球規模で求められる中、日産財団は、「未来に夢を持てる社会の実現を目指し、人財育成の機会創出に貢献します」というビジョンのもと、人財育成事業に助成を行っています。事業のひとつの柱が理科教育助成で、一例として、子供たちの科学的思考能力の向上に貢献する優れた理科教育への助成を行っています。2013年度は同助成プログラムの実践校を対象とした「第1回理科教育賞」を創設しました。2年間の実績を積み重ね、優れた成果を挙げた学校への褒賞を通じて、学校における理科教育の活性化を目指しています。また、研究助成では、低炭素化社会に向けたさまざまな基礎研究に対する助成も行っています。2013年度は総計で37件、約4,500万円の助成を行いました。1974年の創設から2014年3月末までの助成金額は累計で約2,500件、69億円に上ります。

## 才能豊かな日本のアーティストを支援する「日産アートアワード」を創設

日産は、将来性のある日本の優れたアーティストに着目し、活躍を支援することを目的とした「日産アートアワード」を創設、会社創立80周年を迎えた2013年を皮切りに隔年で実施します。第1回の2013年度は、現代アートを対象に選考を行い、8名のファイナリストの中から宮永愛子氏がグランプリに輝いたほか、特に評価の高かった西野達氏が審査員特別賞を受賞しました。日産は、本アワードを通じて日本文化の発展に貢献し、社会や人々に新たな発想や刺激を与えたいと考えています。



▶▶ website

日産財団の活動に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

▶▶ website

「日産アートアワード」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

## オックスフォード日産日本問題研究所(英国)

1981年、日産の寄付により英国オックスフォード大学内に設立された同研究所は、ヨーロッパにおける現代日本研究の主要拠点のひとつとして広く知られ、日欧の相互理解の促進に寄与しています。

▶▶ website (英語のみ)

オックスフォード日産日本問題研究所に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

## 人道支援

**日産は、世界各地で発生した大規模自然災害で被災された方々への支援を行っています。また、国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの協力関係を発展させ、新興国での新たな取り組みを開始するなど、人道支援分野での取り組みを拡大しています。**

## ハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップ

日産は、2005年に米国南部を襲ったハリケーン「カトリーナ」の支援をきっかけに、NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの協働を始めました。同NGOは、貧困や災害などにより安全で清潔な住環境を得られない人々のために、住居の建設と改修を通じた支援を世界各地で行っています。日産は、「人々の生活を豊かに」という自らのビジョンに通じる同NGOの理念に賛同し、2012年にパートナーシップを拡大することを決定。日本以外にも実施地域を拡大し、現地事業会社とその従業員もボランティアとして参加しながら、住居建設などの活動を開始しました。

▶▶ website

「ハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップ」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

## 社会貢献

2013年度には、新たに南アフリカで住宅建設のプロジェクトに着手し、計50棟を建設しました。また、2015年に工場建設を予定しているミャンマーにおいては、国際NGOワールド・コンサーンと協働で、衛生状態の改善や災害に強いコミュニティ形成を目指す5年間のプロジェクトをスタートしました。



平時は学校として、非常時には災害シェルターとして活用できる校舎(ミャンマーで建設予定)

### 東日本大震災被災地支援として「Kids Fab CARAVAN」を支援

日産は、NPOハグジャパンが運営する「Kids Fab CARAVAN」の理念に賛同し、「日産リーフ」「NV350 キャラバン」および運営費用の一部を提供しました。3Dプリンターやレーザーカッター、デジタルミシンなど最新の工作機器を活用したワークショップを被災地域で展開し、参加者は先端技術に触れながらモノづくりの楽しさを体験しました。茨城、福島、宮城、岩手の4県で巡回実施し、計1,689名の子供たちが参加しました。ワークショップで使用する電気は「日産リーフ」から供給しています。

### 自然災害への対応

#### 中国・四川省で発生した地震の被災地を支援

2013年4月20日に中国・四川省で発生した大規模な地震で被害を受けた人々に対して、日産自動車株式会社と日産(中国)投資有限公司(NCIC)、ならびにインフィニティ中国事業本部(IBU-China)の3社は共同で中国のNPO中国扶貧基金会(China Foundation for Poverty Alleviation)に300万人民币元(4,800万円相当)を寄付しました。寄付金は、学校の修復や、被災地の児童が日常生活を取り戻し、再び学習に取り組める環境を整えるために活用されました。

#### 台風30号「ハイエン」で被災したフィリピンへの支援

2013年11月にフィリピン周辺を襲った巨大台風により被災した地域に対して、日産は2,000万円相当の寄付を行いました。うち1,000万円は迅速な緊急援助活動を支援するため、NGOジャパン・プラットフォームに寄付しました。さらに、現地での活動をサポートするため、ピックアップトラック「ナバラ」3台を国連世界食糧計画(WFP)に贈呈しました。



台風「ハイエン」により被災した地域への支援として「ナバラ」3台をWFPに寄贈

## 社会貢献

## 事業を営む地域への貢献

日産は、事業を行う地域の一員として、地域社会に積極的にかかわり、地域の方々に愛される「良き企業市民」でありたいと願っています。地域のイベントに協力するほか、清掃活動など事業所周辺の環境を向上させる活動、自社施設の開放など、さまざまな形で地域貢献活動を行っています。また、従業員もボランティアとして積極的に地域の活動に参加しています。

## 研究開発部門の地域貢献活動「NTC School」2年目の取り組み

神奈川県厚木市の日産テクニカルセンター（NTC）と日産先進技術開発センター（NATC）では、清掃活動や地域のイベントへの協力など、さまざまな地域貢献を行う「NICE WAVE」活動を発展させ、2012年には新たな地域貢献プログラム「Nissan Technical Center 地域ふれあい School（NTC School）」をスタートしました。この活動は「モノづくり拠点であるNTCとNATCの『知』を地域貢献につなげる」ことを目的とし、地域の学校や行政などの要望を受けて、商品企画やデザイン、環境技術など多岐にわたるテーマで出張授業や講演を行う取り組みで、2013年度は計30回の授業や講演を実施、延べ110名の従業員が参加し、延べ約2,300名の方が受講されました。今後も地域の要望に応じて取り組みを拡大していきます。

## ステークホルダーからのメッセージ

## 「第30回 日産 童話と絵本のグランプリ」の授賞式を終えて

「日産 童話と絵本のグランプリ」が創設されたのは1984年でした。その年に大阪万博公園の地に大阪府立国際児童文学館が開館していますので、その歩みは、児童文学館の歴史とともにあるといっても過言ではありません。「セドリック」と「ブルーバード」という子供の本の古典にちなんだ車名で著名な日産自動車株式会社に協賛をお願いし、実現したのでした。バブル崩壊を受けて多くのメセナ活動が撤退していきました。しかし、この賞がそのコンセプトを変えることなく30年間持続できたのは、ひとえに協賛していただいている日産自動車株式会社の皆さまの深いご理解と支援のたまもであると感謝しております。

この賞の第1回の公募には、童話の部：2,888、絵本の部：322作品が集まり、第30回でも、童話の部：2,321、絵本の部：481作品が集まり、30年間に10万を超える応募をいただいています。当初から全国各地からの応募があり、年齢の幅も広く、常に熱心な多くの応募者に支えられています。第1回絵本大賞を受賞した、みやざきひろかずさんの『ワニくんのおおきなあし』が、「ワニくん」シリーズとして人気を博すなど、このグランプリから多くの新進作家が誕生しています。ごく一部の紹介にすぎませんが、童話大賞の尾崎美紀さん、西村まりこさん、佐藤まどかさん、絵本大賞の大西ひろみさん、みやこしあきこさん、中新井純子さんなどの受賞後の活躍には目を見張るものがあります。ちなみに、第30回絵本大賞の『木（きい）ちゃん』の作者ながやただしさんは10回目の応募で大賞を受けられました。

童話や絵本の主な読者は子供です。童話や絵本は子供の成長にとって大切なものと考えられてきましたが、学力テストやスポーツの記録のようにすぐ目に見える成果が出るものではありません。その大切さがより広く認識されるためにも、成果が見えてくるまで、世代を超えて、ゆっくとじっくりとこの賞が持続されていくことを強く願っています。



一般財団法人 大阪国際  
児童文学振興財団  
理事長  
三宅 興子氏